

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2572300081		
法人名	三雲ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム三雲		
所在地	滋賀県湖南市三雲ナガレ69		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町村受理日	平成29年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2572300081-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

野洲川沿いに建っている自然に恵まれたゆったりとできるホームです。ホームでの生活、個人の思い、それぞれを大切にしていけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念の基、職員は利用者のその人らしさを尊重し笑顔のあるホーム作りに取り組んでいます。利用者は日夕リビングに集まり、食事の支度や季節毎の作品作りなどの作業をしたり歌を歌うなど、好きなことやできることを行いながら会話を楽しみ笑顔の絶えないアットホームな雰囲気となっています。また、地域の中でその人らしく暮らしてもらうため地域との関わりを大切に、夏祭りや盆踊り、清掃活動など地域の行事に参加したり、事業所で行う敬老会には地域の方に参加してもらい交流を図っています。フラダンスや腹話術、日本舞踊等のボランティアの来訪もあり多くの関わりを持っています。家族の意見を受けて利用者と一緒に衣類整理を行ったり、外出や外食の機会を増やすなど家族の声も大切に、サービスの向上等に反映させています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げてはいるが抽象的で地域に密着しているとは言いづらい。H29年から新たに検討予定である。	開設当初に作成された「心生き活き 心楽しく その人らしく」という事業所独自の理念を掲げ、日々意識しながら支援に当たっています。新任入職時には説明を行い、月1回の職員会議等で振り返り、確認を行っています。また、年度末には全体のサービスを振り返る中で理念の実践状況を確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の掃除などに参加、また定期的にボランティアさんを招きレクリエーションを行っている。運営推進会議等も実施している。	自治会に入会し清掃活動や夏祭り、盆踊りの見学など地域の行事への参加や散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、野菜を頂くなどの関わりを持っています。事業所で行う敬老会には地域の方に参加してもらい交流を図っています。また、中学校の体験学習を受け入れたり、フラダンスやマジック、腹話術、日本舞踊等のボランティアの来訪もあり、地域との良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてホームの取り組みなど報告。また季刊誌などでも伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施。ホームの取り組みや地域行事の参加など話し合っている。	会議は自治会長、市職員、介護相談員、地域包括支援センター職員、家族代表の参加を得て、2か月に1度開催しています。行事や利用者の状況、事故報告等の後、意見交換を行っています。参加者から地域の情報や意見を受けて、山菜とりや銀杏拾いに出かけるなど外出行事に取り入れたり、地域との繋がりに反映し有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室の相談など必要に応じて協力を仰いでいる。	運営推進会議に市職員に参加してもらい事業所の理解を得ています。また、研修の案内を受け、できる限り参加し情報交換をしたりアドバイスをもらっています。わからないことがあれば窓口を訪問した際や電話等で随時相談しアドバイスを受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1名のみ、見守りできない時など必要に応じて安全ベルトを使用、毎月会議で状況報告や検討を行っている。	年1回法人主催の身体拘束についての研修を受け、資料を基に伝達研修を行い全職員に周知しています。危険回避のため家族に了解を得て安全ベルトを使用していましたが、会議毎に改善に向けた話し合いを重ね、現在はほとんど使用していない状況です。玄関は施錠せず、出かけた方には職員が一緒に付き添ったり、玄関先でお茶を飲むなど気分転換を図り、閉塞感を感じないような対応に努めています。	

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体に限らず言葉使いなど虐待になるようなことがないように職員一同気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度自体はある程度知っているが内容までは熟知していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時など、分かりやすい言葉で理解しやすいよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置、契約時にも家族に説明し広い意見が得られるよう努めている。	家族の面会時や電話で利用者の近況報告を行い、意見や要望を聞くようにしています。衣類整理や外食を増やしてほしいなどの要望があり、職員と一緒に整理をしたり、外食の機会を増やすなど出された意見は都度対応しサービスの向上等に反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の勤務や職員会議などで職員の意見を聞き、本社会議にて報告、反映できるようにしている。	職員会議や日々の業務の中で職員の意見や提案を聞いています。会議の不参加時は事前に意見を聞くようにし、出された意見については職員会議やケアカンファレンスで話し合っています。イベント担当や居室担当からの意見が挙がることもあります。テーブル購入についての提案があり、法人に上げ購入に繋げるなど意見を反映させています。管理者は年に2回の面談と随時の面談を行い意見や相談を受ける機会としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1度評価シートや目標設定シートを使い面談。課題や成果を明確にしやりがいに繋がるよう行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて年に数回法人研修を実施。社外研修も自由に参加できるようになっている。資格取得にも補助が出るなど、職員の育成に努めている。		

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度に同市のGHの管理者同士で話し合いの機会を作る。合同運動会の発案をするも日取りが合わず。各施設のイベントに招待し合うという企画が出るが今のところ実施できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と本人の思いは違うのでそれぞれの要望や意見を取り入れ職員間で話し合い、本人の居場所づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時などは相手の話を待って急がないように、話しやすい雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自立支援を念頭に必要なサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の重度化により身体介護が増えてきている中、暮らしを共にしている気持ちを忘れず、笑顔が引き出せるよう会話を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での本人の言葉や生活ぶりを伝え、家族と利用者との関係の大切さを改めて話し合い、家族にも理解を得られるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話での対応や面会にこらえた方には、笑顔や快活な会話で対応し、次回も来所しやすいような雰囲気作りに努めている	友人や親戚等の来訪時は居室やリビングなど希望の場所へ案内しゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮しています。ドライブを兼ね自宅を見に行ったり、行き慣れたスーパーへの買い物や以前に行っていた地域のサロン、神社などへ出掛けています。以前から通院している病院に家族と出掛ける際は身支度等の準備や日程調整等の支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性利用者の会話の中に男性利用者が入って行きやすいよう職員が間に入るなどしてつないでいる。個々の持っている生活力も認め合っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去は他施設移行か死去なのでニーズはないが、状況に応じて対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いや暮らしの希望に沿って生活支援している。困難な場合は、家族の意向を伺いながら本人主体で検討している	入居時の面談で本人や家族から生活歴や身体状況、暮らしへの希望、趣味等を聞き、アセスメントシートに記載し、以前の事業所からの情報等もまとめて思いの把握に繋げています。入居後は日々利用者に関わる中で意向に繋がる情報などはアセスメントシートに追記し、カンファレンスで思いに添ったプランになるよう検討したり、困難な場合は家族から聞くこともあり意向の把握に努め職員間で共有をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所によりこれまでの暮らしが変化することを踏まえ、会話を密に取りこれからの生活が充実した気持ちで過ごせるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態や言動を把握しながら出来ることには本人の意思を確認した上で力を発揮していただき、過剰な支援にならないよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らせる事を目標に、カンファレンスは極力全員参加し、話し合い、家族への連絡や報告、時には意見を伺い、ケアプランに反映し作成している	利用者や家族の意向、アセスメントシートを基に介護計画を作成しています。3か月毎にモニタリングを行ない、状況に変化が無ければ6か月毎に見直しを行っています。見直しの際には再アセスメントと全職員参加の下サービス担当者会議を開催し、事前に確認した家族の意向や必要に応じて医師からの意見を反映させた介護計画としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や職員間の申し送りで日々の情報を共有し、ケアについての勉強会を実施するなど、より良い暮らしにつなげていけるよう介護計画の見直しに取り入れ生かしている		

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空室を利用したのショートステイやお試し入居など行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の馴染みの場所へのドライブや買い物、行き慣れた病院など、利用者を隔離することなく今までの生活をなるべく引き継いだ生活ができるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診してもらっている主治医と良好な関係ができています。歯科や入院などは本人、家族の希望を優先し主治医に紹介状を依頼している。	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続が可能であることを説明していますが、全利用者が協力医に変更しています。協力医は月に1回の往診や随時の往診にも対応が可能で24時間の相談もでき緊急時は指示を仰いでいます。受診は家族の同行が基本ですが必要に応じて職員が支援をすることもあります。受診結果は口頭にて互いに報告をしています。歯科治療の必要な利用者は職員付き添いの下、受診をしている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の不調や異変などは記録に残し、緊急を要すると判断した場合は迅速に看護師に連絡、相談を行い適切な対応がとれるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のDrやNSにホームでの情報提供を行い、苗内入院でも不安が軽減されるよう努めている。長期入院による認知症悪化を防ぐため、なるべく病院と連絡、相談を密に行い早期退院に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族ごとに話し合いを行い、事前指示書を作成している。その内容に従って緊急時などは対応することを家族、主治医にも確認し、行っている	入居時に看取り指針に基づいて説明を行い、意向の確認をしています。重度化した際は医師から家族に説明し意向について再確認をしています。その後も医師からの説明を家族に伝え、話し合いを重ねて方針を共有しています。家族の頻回な面会や泊りでの見守りなど協力を得ながら支援を行っています。年1回看護師による勉強会を行い、個々に応じたケアの実践と職員の不安軽減に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議の際や勉強会を設け定期的に実践しているが認識や理解に差があり繰り返し行う必要がある。		

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、避難訓練(夜間想定も)を行った。 今年の新入社員に訓練をしてもらった。	年2回の訓練の内1回は消防署の立ち合いの下屋間想定で利用者にも参加してもらい、通報や初期消火、避難誘導、水消火器訓練を実施し、自主訓練は夜間想定で行い、運営推進会議で報告をしています。災害に備え飲料水を保管したり、地域の防災訓練には職員が参加しています。	運営推進会議で避難訓練の実施報告をされていますが、近隣や地域の方にも案内や声掛けを行い、協力関係が築けるよう取り組まれてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けは、人生の先輩であることを念頭に丁寧に行っている。 否定的な言い方にならないように気を付けている。	法人主催の接遇研修を受講した職員が資料を基に伝達し、全職員に周知しています。言葉遣いは敬語を心がけると共に話すスピードや声の高低にも留意し、わかりやすく聞き取ってもらえるように配慮をしています。名前は苗字で呼び、入室時はノックと声掛けを行い、排泄の支援時にもさりげなく声を掛けるようにしています。不適切な対応があれば管理者が注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外へ出られる際、本人の思いを確認して判断するなど利用者の気持ちを最優先に生活できるよう努めている。 その日の過ごし方など本人の意思を尊重し生活していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりのペースを尊重している。自身の思いを言葉にしにくい方などは、その方の発するサインを極力すくい上げ心地よい生活を送っていただけるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方は、毎朝ひげそりを行ったり、気候に不適切な重ね着などをされている場合は、本人の思いを尊重した上で健康に支障が出ないような服装を職員とともに行っている。衣類は基本利用者本人に選んでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎朝、昼食の準備、下拵えなど出来る事を手伝っていただいている。 飲み込みが弱い方には、刻み食やトロミをつけて食べやすくしている。	献立はその日の担当者が食材を見て利用者の好みや旬の物などを考慮して立てています。食材は週に1回届き、不足分については利用者と一緒に買い物に出掛けています。野菜の下拵えや味付け、洗い物などできることに携わってもらい、職員と同じ食卓を囲み共に食事を摂っています。個々の食事形態と代替食にも配慮し、行事食や外食、出前などを取り入れながら食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は職員ひとりひとりが栄養バランスを考え献立にしている。 水分は、本人の希望を聞きながら飲んでもらい日々の水分チェック表で管理している。		

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方の洗面所への誘導が徹底できていない。 介助の必要な方は、歯ブラシで口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみ、必要な方はプライバシーに配慮した上で定期的にトイレ誘導を行っている。 トイレ行かれた後に、失敗がないか確認している。	トイレでの排泄を基本とし排泄のリズムを把握し声掛けやトイレに案内することで失敗が少くなるように支援をしています。個々に合わせた支援をすることで紙パンツから布の下着に変更するなど改善している方もいます。個々の排泄用品や支援方法についてはカンファレンスで検討し現状維持や自立に向けた支援ができるように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や食事内容は植物繊維の多い物を気にかけて出している。 便秘気味の方には、整腸剤等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を確認して気持ちよく入浴していただけるよう配慮している。 介助の必要な方は、二人介助で行っている。	入浴は週3回を目途に日中に入ってもらい、希望に沿って回数を増やしています。季節の柚子湯の他、乾燥防止や好みの入浴剤を使用し入浴を楽しめるよう支援しており、希望があれば同性介助で対応し、必要に応じて2人介助の体制で支援を行うこともあります。入浴を断られる方は声掛けの工夫やタイミング、職員を変更するなど無理強いないせ入ってもらっています。また、足浴を行うこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に入眠を進めず、自由に休んでもらう。 帰宅の訴えが頻回の方には、ゆっくりはなしを聴いて落ち着かしてから休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の体調に合わせ、担当ナースに確認しながら必要に応じて調整しながら服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きや洗濯物たたみ、ごみ捨て等、協力して職員と一緒にやってもらっている。 レクリエーションは、皆が参加して楽しめるように声かけしながらバラエティーに工夫して行っている。		

グループホーム三雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に外にゴミ捨てに行き近くの公園で散歩して帰る。 月の行事の中で外食を取り入れ好きな物を食べてもらっている。 社用車で一緒に気分転換を兼ねてドライブしてもらっている。	気候や天候の良い時には、近隣への散歩やゴミ出し、買い物等に出掛けたり、玄関先の駐車場でお茶を飲んだり、近隣の落ち葉掃きに参加するなど外気に触れる機会を多く持っています。また、初詣や桜の花見、紅葉狩りなど季節毎の外出やドライブなどを取り入れ外出を楽しんでもらっています。時には希望を聞き個別で出かけることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の時おこずかいの範囲で好きな物を買ってもらう。必要な物の買い物支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の安否を気にされる利用者など、必要に応じて疎遠にならないように定期的に車で面会に行ってもらう。 家族と話したい時は、必要に応じて直接電話で話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度や室温、ホールの照明等に気を付け調整している。トイレ表示は、わかりやすくしている。個人の生年月日やカレンダーを活用して現在の様子がわかるようにしている。	共用空間は季節の花や利用者と一緒に作った貼絵など季節毎の作品を飾り、季節感に配慮しています。毎日掃除や換気を行い清潔保持に努め、加湿器を置いたり、利用者の体感を聞きながら温湿度にも配慮し、快適に過ごせるよう調整を行っています。テーブルの席や高さ等希望に沿って変更したり、玄関ホールに椅子を置くなど思い思いに過ごせるよう工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置いたり、廊下には椅子を置いて好きな場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大事にされている物や使い慣れた物を配置している。 入眠前は、寒くならぬように暖房で調整している。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう家族に伝え、テレビや筆筒、テーブル、椅子、姿見等持ち込まれ、過ごしやすいように配置しています。裁縫や編み物道具等趣味の物や仏壇等大切な物を傍に置き、その人らしく安心して過ごせるよう支援しています。換気と掃除は毎日行い、利用者に合わせて室温を調整し心地よい居室となるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるよう案内を貼ったり、段差をなくすスロープ、ペーパータオルのホルダーの位置を工夫したりと、利用者が自立した生活が送れるよう努めている。		